

# OPERA Hamlet

オペラ ハムレット  
(アムレット)  
全5幕  
フランス語上演 字幕付  
作曲：A.トマ (A.Thomas)  
台本：M.カレ及びJ.バルビエ

2013年  
8月31日(土) 9月1日(日)

[13:15開場 14:00開演]



指揮 岩村 力  
演出 佐藤 美晴



ハムレット 月野 進  
オフィーリア 盛田 麻央  
クロードティラス 佐藤 泰弘  
ガートルード 佐伯 葉子



ハムレット 森口 賢二  
オフィーリア 森 朱美  
クロードティラス 矢田部 一弘  
ガートルード 相馬 百合江



レアティーズ 大野 光彦  
前王亡霊 岩本 真文  
マーセラス 根岸 一郎  
ホレイシヨウ 村田 孝高



ポーロニアス 吉原 裕作  
墓堀人1 白岩 貢  
墓堀人2 塩沢 聖一

美術 乗峯雅寛  
照明 奥畑 康夫  
衣装デザイン 佐藤 美晴  
衣装コーディネータ 森田 恵美子  
音響 関口 嘉顕  
舞台監督 徳山 弘毅  
舞踊監督 横井 茂  
演出助手 根岸 幸 柳亭 雅幸  
ヘア・メイク 篠崎 圭子  
合唱指揮 中橋 健太郎 左衛門・楠見 哲之  
副指揮 諸遊 耕史・川嶋 雄介  
コレペティトゥア 長澤恵美子・森 順子・山岸真紀子  
制作 永田 絵美・平松 八樹・吉田 宣俊  
長澤恵美子・大塚 樹美



「ハムレット」とは異なる結末が訪れる「アムレット」

フランスの作曲家、アンブロワーズ・トマ(1811-96)の「ハムレット」(1868年5月9日、パリ・オペラ座で初演)はもちろん、英国の劇作家ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616年)の傑作戯曲を原作とするオペラである。ところが英語の戯曲をなまじっか知っている、オペラ版に唾然とする可能性が大きい。

だいたい題名からして、フランス語は「H」を発音しないので主役ハムレットは「アムレット」に化ける。他の登場人物もデンマーク王クローディアスが「クロード」、その妻でアムレットの母ガートルードが「ジェルトリュード」、オフィーリアが「オフエリ」、その父の宰相ポーロニアスが「ポロニユース」などなど、ことごとくフランス語読みになるので最初は戸惑う。

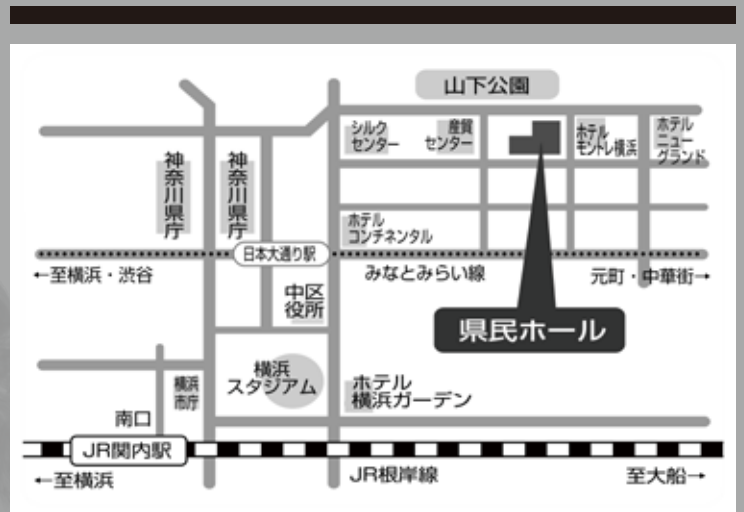
それでも耳が慣れ、よく知られた物語にフランス音楽ならではの美しい旋律、和音が重なり合う世界に浸りきった最後の最後に、最大の驚きを用意されている。ハムレットは死ぬが、アムレットは死なないのだ! 原作はハムレットの父で、現王の兄に当たる前王(現王に毒殺された)の復讐を遂げた後に落命する。オペラではオフエリの葬列に前王の亡霊が現れ、「息子よ、お前が王になれ」と告げる。アムレットも「愛する者は墓へ。そして私は王座へ」とこたえ、万歳の合唱とともにハッピーエンドとなる。

「やり過ぎ」と思う演出家や劇場支配人、さらに観客は多いだろう。「そして私は王!」と宣言する部分を「オフエリ、お前とともに死ぬ!」に差し替えた版もあり、最近のニューヨーク・メトロポリタン歌劇場も悲劇版を採用している。あれこれ調べていたら、アムレットだけでは不公平だから、オフエリも生き返らせてしまい、結婚式で「めでたしめでたし」なんてトンデモ版まで存在するようだ。

日本でも赤穂浪士の討ち入りの実際と、歌舞伎の「忠臣蔵」で描かれるエピソードは一致しない。史実と、それに基づく小説や戯曲、オペラなどの内容が完全に同じである例の方が稀だろう。理由は、史実や原作が後の時代を生きる人々になお語りかけ、伝えようとしている社会や人間の真実をドラマならドラマ、オペラならオペラなりの語法で描くことに、創作の力点が置かれているからである。王子の真実が「狂気なのか、狂気を装った正気なのか?」という疑問の一点だけ挙げても、シェイクスピアの原作が現代の私たちに投げかけたテーマは大きい。トマもまた、19世紀後半のパリのグラントオペラ界から数百年前のシェイクスピアの芝居小屋を眺め、彼なりの「答案」を観客に提示したといえる。

首都圏での本格的な上演は、東京オペラプロデュースが松尾洋演出で1997年にグローブ座、99年に新国立劇場で行って以来。フランス人の大胆な読み替えを徐々に堪能したい。

(池田卓夫=音楽ジャーナリスト)



神奈川県民ホール 〒231-0023 横浜市中区山下町3-1  
http://www.kanagawa-kenminhall.com/kh\_rent\_f.html  
みなとみらい線 日本大通駅より徒歩約6分 / JR根岸線・市営地下鉄 関内駅より徒歩約15分